

令和7年度
紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（第1回）
会 議 録

令和7年6月



会 議 録

□会議の名称： 令和7年度紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（第1回）

□開催日時： 令和7年6月24日（火）
午後2時00分開会～午後3時45分閉会

□開催場所： 紀の川市役所 5階 501会議室

□会議次第： 1. 開 会
2. あいさつ
3. 出席者紹介
4. 議 事
5. そ の 他
6. 閉 会

□会議資料： ○配席図、出席者名簿
○議案書、別冊資料
○紀の川市公共交通ガイドブック
○紀の川デマンド乗合交通（のりのり交通）リーフレット
○粉河熊取線時刻表
○紀の川市地域公共交通計画（概要版）
○JR和歌山線関連資料

□会議の公開・非公開の別（非公開の場合はその理由）： 公 開

□傍聴人の数（公開した場合）： 0 人

□出席(欠席)委員： 「(参考)出席者名簿」のとおり

□事務局： 事務局長（企画部 部長） 栗本 宗彦
事務局次長（交通政策課 課長） 横山 崇英
事務局員（交通政策課 班長） 南條 青志
事務局員（交通政策課 主査） 井辺 将文

□会議録署名委員：（那賀地区区長会 会長） 野村 清彦 委員
（貴志川地区区長会 会長） 井上 禎 委員

□議事進行

1. 開 会

○横山事務局次長より会議の開会を宣言。

2. あいさつ

○今城会長より挨拶。

3. 出席者紹介

○横山事務局次長より、出席者を紹介。

○本日の議案に関連して、かつらぎ町の担当課室よりオブザーバーとしてご出席いただいている旨紹介。

4. 議 事

○協議会規約に基づき井上副会長が議長となり、議事を進行。

○井上議長が、会議の成立要件に鑑み、有効に成立していることを確認する。

○井上議長が、会議録署名委員（2名）を指名し、了承を得る。

【議案第1号】令和6年度の実績について

○井上議長

事務局へ説明を求める。

○事務局

「議案書3ページ～14ページ（資料1）」により令和6年度の市内を運行する各公共交通の利用実績および地域公共交通計画の目標達成状況について説明。

○井上議長

交通事業者の方から追加説明や補足等があればお願いしたい。

○大木委員代理（西日本旅客鉄道株式会社和歌山支社）

和歌山線の現在の輸送密度は3,811人であり、旅客輸送における大量輸送性が十分発揮できていない線区の一つの目安である4,000人を少し下回っている。紀勢線の新宮～白浜間の輸送密度は935人であり、かなり厳しい線区ということで、沿線自治体とともに、区間部会を立ち上げて利用促進に努めているところである。

紀の川市内各駅の乗車人員の推移では、大きな変動はないが、全体的に減少傾向が続いている状況。

紀北エリアの交通分担率について、令和3年度のデータでは、自動車が約6割で、鉄道は5.1%となっている。道路が整備され高速道路が開通し、一人一台ぐらいの自動車の保有率となっている中では、鉄道やそれ以外の公共交通がなかなかご利用いただけない状況。

鉄道の場合は、駅まで行かなければならないことや、駅から降りた後に移動しなければならない点で、不便な乗り物であるかと思う。ここにいる委員の皆さまだけではなく、住民の皆さまにお願いしたいのは、例えば、10回車で移動している中で1回でも意識して鉄道を利用していただくこと。便利さでは自動車には敵わないことから、意識してご利用いただければ、鉄道利用は少なくなってしまう。市町にあるコミュニティバスや路線バスと併せてご利用をお願いしたい。

○森川委員代理（和歌山バス那賀株式会社）

1月から運行を開始した紀の川デマンド乗合交通（のりのり交通）について、利用者は口コミで拡大している。利用目的は買い物や通院での利用が中心で、利用者は高齢の女性の方が中心で、家の近くから乗れて店の前まで行けることが大変好評となっている。要望として、ここまで行ってくれたら、エリアをもう少し変更してくれたら、という声はあるが、現状はこの協議会で設定したエリアでの運行ということであるため、利用者の方にはご意見をいただいたということだけお伝えしている。利用者の方に喜んでいただいているサービスであるので、事業者としてもやりがいを感じながら運行している。

○西脇委員（株式会社有交紀北）

1日平均7～8人のご利用をいただいている。まだまだ倍以上の輸送能力がある。現状でも利用者の6割程度は定期的に使っていただいているが、これからもっと定期的な利用者を増やしていかなければと考えている。

タクシーの影響を懸念していたが、今のところ影響は全くない。そもそもタクシー

をご利用いただく方は、足が不自由な方も多く、のりのり交通が運行開始してからも引き続きタクシーをご利用いただいております、現状としては上手くタクシーとのりのり交通のすみ分けが出来ていると考えています。

○竹添委員代理（和歌山電鐵株式会社）

貴志川線は、コロナによる影響をかなり受けており、2018年との比較では、観光等を含めた定期外で1割減、通勤で2割減、通学で3割減と、回復しきれておらず、通勤・通学への影響が大きい状況。定期外はかなり回復している状況で、インバウンドの利用者はコロナ禍以前よりも回復しているが、沿線の高校・大学の通学利用が目に見えて減少している。沿線の大学の開校も決まっており、この先も厳しい状況であると感じている。

この先持続的に路線を残していくためには、地域外の方への利用促進と、地域の方の日常的なご利用の両輪の取組を進めていかなければならないと認識している。

貴志川線の運営スキームについて、来年の春に10年おきの見直しの時期に来ており、現在関係者で今後どうやって貴志川線を残していくかについて協議を進めているところである。今後皆さまからのお力添えをいただくこともあるかと思うが、よろしくお願ひしたい。

○井上議長

意見・質疑を委員に求める。

（意見・質疑等なし）

○井上議長

拍手をもって承認の可否を確認。

（拍手多数）

○井上議長

拍手多数と認め、議案第1号を承認する。

【議案第2号】 令和6年度会計歳入歳出決算について

○井上議長

事務局へ説明を求める。

○事務局

「議案書15ページ」により説明。

○井上議長

監査報告を監査委員に求める。

○西浦委員（岩出市）

監査のうえ、会計は適正であったことを認める。

○井上議長

意見・質疑を委員に求める。

（意見・質疑等なし）

○井上議長

拍手をもって承認の可否を確認。

（拍手多数）

○井上議長

拍手多数と認め、議案第2号を承認する。

【議案第3号】 地域公共交通計画「別紙」（地域内フィーダー系統）の策定について

○井上議長

事務局へ説明を求める。

○事務局

紀の川市地域巡回バスの一部路線・コースについて、地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金の活用による路線の確保・維持を図るため、「別冊資料」の内容で計画認定申請を行う旨説明。

なお、本計画認定申請書の国への提出に際して、軽微な変更が生じた場合は、事務

局で修正を加える場合があるため、予めご了承をお願いする。

また、かつらぎ町にまたがる系統である桃山鞆淵コースについては、「別冊資料17ページ」に記載の内容のとおり、かつらぎ町と協議が調っていることを報告する。

○井上議長

意見・質疑を委員に求める。

○井上委員（貴志川地区区長会）

目標値に関する説明があり、これに向けて全員が力を合わせていかなければならないのは分かっているが、では目標に向かってどのようなアクションプランを取るのか、というところが弱いのではないかと感じる。これだけであれば、結果としてまたできなかったという風にならないのか、もっとアクションプランがあってしかるべきじゃないかと思う。

○事務局

目標を達成するうえで、情報発信をすることで認知をいただくことが重要であると考えている。最近では、紀の川デマンド乗合交通の説明会をする中で、既存の地域巡回バスと組み合わせたご利用についても併せてお願いをしているところ。今後とも情報発信の機会を増やしていき、知っていただくところから利用促進を進めていきたいと考えている。

○井上委員（貴志川地区区長会）

申請書以外の部分の意見になるが、粉河駅前から熊取駅前、岩出駅前から樽井駅前などの府県間バスの利用率は結構多いと思っている。それは大阪方面への移動に対する利便性があるためだと考えている。

私が利用している貴志川線沿線で例えば、駅から歩いて2、3分のところに20台くらい置ける駐車場があればもう少し貴志川線の利用が増えるかもしれない。貴志川線沿いでは難しいかもしれないが、和歌山線沿いではもう少し、田畑の値段が下がっているところで貸していただける土地があるのであれば考えてみても良いのでは。特に打田は人口も増えている。電車は大きな動脈であり、まずはこれをどう残していく

かに主眼を置いて、何とか輸送密度が4,000人を上回るように市が率先してパークアンドライドの取組を進めていくなどを今後考えてみてはどうか。車よりも和歌山市内への速達性があるため、パークアンドライドできる環境を整備すれば、鉄道の通勤利用者も増えるのでは。

今日、この協議会に来られている皆さんも車で来られているかと思う。貴志川のバスは日に1本か2本しかない。またデマンド乗合交通はまだ貴志川地域を運行していないので分からないが、おそらくその地域だけしか運行せず、地域外には乗り換えしないといけないこととなり、利便性はそれほど高くないと考えている。そうになると、乗れる間は車で移動しようかということになる。バスも大事だけれども、まずは鉄道をきっちり残していくということに主眼を置いた方が個人的に良いと考える。

○事務局

和歌山県および和歌山市から橋本市までの和歌山線沿線の自治体で構成される「和歌山線活性化検討委員会」の中で、和歌山線をどうして残していくのかという支援も協議している。

貴志川線に関しても「貴志川線運営協議会」や「貴志川線運営委員会」という組織体の中で、和歌山電鐵さんのほか、和歌山県、和歌山市、紀の川市の自治体や地域のまちづくり団体も一緒に協議を進めており、本協議会と並行して鉄道に関する協議を行っているところ。

○井上議長

書類は書類として問題ないとは思いますが、目標である1日1人の利用者数増加を実際にどのように増やしていくか、知恵を出していくのがこの場である。まさしく井上委員からご指摘をいただいたとおりなので、開催のたびに引き続き、「こうしたらもう少し利用者を増やせるのでは」といった話をしていければ。

例えば1便あたり3人以上ご利用いただいている路線では、どんな方が利用されているかという特徴を見れば、似たような方にお声がけすれば乗っていただける可能性が出てくる。やみくもに乗ってくださいと言って乗るようであれば、利用促進に困る

ことはないはず。実際はそうではないので、もう少しピンポイントにお声がけすることが重要かと考える。

その中で、鉄道を残していく話について、みんなが好きで車に乗っているわけではないという話がある。特に和歌山市内の朝のラッシュ時をみんな嫌々ながら運転しているかもしれず、もしかしたら交通混雑状況が見える化されてくれば、だったら駅前に車を停めて電車で行こうかという人が出てくるかもしれない。こういった意見が出てくるのが会議の大切な意味なので、引き続き開催のたびに、色んなご意見をいただければうれしく思う。乗ってみた感想とか気づいたことなどをご発言いただければ。

○井上議長

ほかに質問や意見がないようであれば、お諮りしたい。なお、提出した後に軽微な修正があった場合は、事務局で修正するということを前提とする中で、賛同する方は拍手にて承認いただきたい。

(拍手多数)

○井上議長

拍手多数と認め、議案第3号を承認する。

【議案第4号】令和7年度会計歳入歳出予算（案）について

○井上議長

事務局へ説明を求める。

○事務局

「議案書18ページ」により説明。

○井上議長

意見・質疑を委員に求める。

(意見・質疑等なし)

○井上議長

拍手をもって承認の可否を確認。

(拍手多数)

○井上議長

拍手多数と認め、議案第4号を承認する。

【議案第5号】 運賃協議部会の設置について

○井上議長

事務局へ説明を求める。

○事務局

「議案書19ページ～23ページ」により説明。

令和5年10月の改正道路運送法の施行に伴い、一般乗合旅客自動車運送事業の運賃を協議する際の手続きが変更されており、本協議会の中で運賃を協議することは出来なくなっている。そのため、本協議会の部会として、運賃に関する項目だけを専門的に協議して、協議内容を取りまとめる運賃協議部会を設置させていただく。

運行内容に関する協議は本協議会で取りまとめ、運賃に関する協議は運賃協議部会で取りまとめるという流れで進めるが、内容は相互に連動しながら進めていければと考えている。

開催イメージとしては、地域巡回バスや紀の川コミュニティバスの路線延長や運行系統の新設など、新たに協議運賃の届出が必要となる場合に、広報紙、ホームページ等での意見募集のうえで、「運賃協議部会」を本協議会に併せて開催させていただく予定となっている。

構成員は道路運送法に掲げる構成員の中から、本協議会の委員の皆さまから該当する委員の方に依頼をさせていただく。

運賃協議部会の設置規程については、本協議会規約に準じる形で策定させていただいている。

○井上議長

今までコミバスの運賃を協議会で決めていたが、国の方から別に部会を作ってく

ださいという案内があって、今回のお話がある。他の自治体でも同じように部会を作っており、その内容と大きく変わるところはなく、一般的な内容であるのご理解いただければと思う。

○井上議長

意見・質疑を委員に求める。

(意見・質疑等なし)

○井上議長

拍手をもって承認の可否を確認。

(拍手多数)

○井上議長

拍手多数と認め、議案第5号を承認する。

5. その他

○事務局

協議終了後の「その他」の時間で、議案以外の内容を含めて、委員の皆さまから情報共有や話題提供をいただくことで、地域の公共交通に対する理解を深め、協議会をより良い協議の場にしていければと考えている。

今回、井上副会長（議長）に、公共交通の現状やあるべき姿などの、公共交通の大枠的なお話について、話題提供をお願いしたく考えている。

○井上議長

私は地理学を専門としている。例えば、どこしてここに役所があるか、どうして和歌山線がここに出来たのか等、何か空間的な意味があって物事が出来ていることを説明するのが地理学。その中でも交通を専門としており、どうしたら公共交通がもっと良くなって、みんなが幸せな社会になれるのかというのを研究している。他の地域でも色々活動している中で、今回、情報共有をさせていただき、より良い公共交通になれば良いと思っている。

(井上議長からの提供資料に沿って、公共交通を取り巻く現状や、地域公共交通を維持していくうえで大切となる考え方等について、情報提供をいただく)

○井上議長

意見・質疑及び委員からの共有事項の有無等を確認する。

(意見・質疑等なし)

○井上議長

事務局からは、何かあるか。

○事務局

- ・会議録の署名について、案内を行う。
- ・まちと交通の課題の解決・再生に向けて、考え方の整理や実践を行うセミナーを開催されている「NPO法人再生塾」が開催するアドバンスコースというセミナーの研修フィールドとして、今年度、紀の川市が協力することとなった。セミナー参加者がグループワークや現地視察等を行う中で紀の川市の課題解決に向けた提言をいただけることとなっている。セミナー参加者がフィールドワーク等を行う中で、場合によっては、運行事業者の皆様にも可能な範囲で情報提供やヒアリング等のご協力をお願いしたい。
- ・本日の協議会の中で、ロコミが大事というお話があったが、のりのり交通について、各委員の皆さままでPRいただける機会がございましたら、是非お願いしたい。

6. 閉 会

以上、令和7年度紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（第1回）の内容を記載し、その内容に相違ないことを証するためここに署名する。

令和7年 7月 8日

会 長 介 戒 崇 光

署名委員 井 上 禎

署名委員 野 村 清 彦

(参考) 出席者名簿

(敬称略)

| 規約第4条に基づく位置付け | 所属 | 職名 | 氏名 | 備考 |
|---|--------------------------|-------------------|--------|--------------|
| (1) 紀の川市の指名する者 | 紀の川市 | 副市長 | 今城 崇光 | 会長 |
| | 紀の川市福祉部 | 部長 | 貴多橋 一仁 | |
| | 紀の川市建設部 | 部長 | 山本 欣史 | |
| | 紀の川市教育部 | 部長 | 長田 和美 | |
| (2) 法第2条第2号に掲げる公共交通事業者等及びその組織する団体が推薦する者 | 和歌山バス那賀株式会社 | 常務取締役支配人 | 森川 圭治 | 代理出席 |
| | 株式会社有交紀北 | 代表取締役 | 西脇 正宜 | |
| | 公益社団法人 和歌山県バス協会 | 専務理事 | 森下 清司 | |
| | 一般社団法人 和歌山県タクシー協会 | 和歌山地区委員長 | 川村 健一郎 | 代理出席 |
| | 和歌山県交通運輸産業 労働組合協議会 | バス部会長 | 坂前 吉信 | |
| | 西日本旅客鉄道株式会社 和歌山支社 | 地域共生室 課長代理 | 大木 優之 | 代理出席 |
| | 和歌山電鐵株式会社 | 総務企画部 営業企画課 課長 | 竹添 善文 | 代理出席 |
| (3) 住民又は利用者の代表 | 那賀地区区長会 | 会長 | 野村 清彦 | |
| | 貴志川地区区長会 | 会長 | 井上 禎 | |
| | 紀の川市身体障害者連盟 | 会長 | 川嶋 至 | |
| (4) 近畿運輸局和歌山運輸支局長又はその指名する者 | 和歌山運輸支局 | 首席運輸企画 専門官 | 明石 久則 | |
| (5) 岩出警察署長又はその指名する者 | 岩出警察署 | 交通課 警部補 | 油谷 健 | 代理出席 |
| (6) 道路管理者、学識経験者その他の協議会が必要と認める者 | 龍谷大学文学部 | 教授 | 井上 学 | 副会長 |
| | 那賀振興局地域づくり部 地域づくり課 | 課長 | 川崎 勝規 | 監査委員 代理出席 |
| | 那賀振興局建設部 | 副部長 | 久保 省生 | |
| | 岩出市総務部総務課 | 課長 | 西浦 正員 | 監査委員 |
| 欠 席 | 打田地区区長会 | 会長 | 山地 克巳 | |
| | 粉河地区区長会 | 会長 | 赤松 新太郎 | |
| | 桃山地区区長会 | 会長 | 新谷 幸治 | |
| | 和歌山運輸支局 | 首席運輸企画 専門官 | 川村 昌光 | |
| | 和歌山河川国道事務所 和歌山国道維持出張所 | 所長 | 柴田 真次 | |
| | 紀の川市農林商工部 | 部長 | 西 博行 | |
| オブザーバー | かつらぎ町企画公室 | 交通政策係 | 西川 依里 | |